



自分の好きな研究をしたい。  
それだけで生きてきましたが、  
今は、世のためになる研究を。

# 山本 尚

Hisashi Yamamoto

## 中部大学

総合工学研究所長、分子性触媒研究センター長、教授  
日本化学会会長、クレスト分子技術研究総括  
シカゴ大学名誉教授、名古屋大学名誉教授

**研** 究所の壁に飾られた「而今」の書。山本氏が好きな道元禅師の言葉。意味は現代風に訳すと「いつやるの？今でしょ！」。思い立ったらすぐに行動する。山本氏の人生に対する姿勢を現している。

京都大学在学中、野崎一氏の研究室で有機化学の研究を続けるうち、世界のレベルの高さを知る。ならば世界のトップを目指そうとハーバード大学での研究を決意。「自分で申請書から推薦書まで英語で書いて送ったら、入学が認められたので行きましたよ。周りの人からは、その若さと経験では無茶だと大反対されましたけどね。案の定、大変な目に遭いました。入ってすぐに化学の基本的な 4 科目のテストがありました。ハーバード大学で研究をするには全て B+以上の成績をとる必要があるのですが、結果は全て F。ウッドワード (R.B. Woodward) 先生にはいつ日本に帰るのかと言われてましたが、半年だけ待って欲しいと頼み込みました。再テストを受けて無事に 4 教科とも B+以上取れたのですが、あの半年は勉強漬けでほとんど寝ませんでしたね。若かったですよ。」

## 化学の研究者として

ハーバード大学で博士 (Ph. D) を取得後、京都大学で講師、ハワイ大学で准教授を経て、名古屋大学、シカゴ大学、中部大学で教授として研究に没頭する日々を過ごす。世界に先駆けてルイス酸触媒に関する研究を行い、有機化学界で数々の新たな研究成果を発表し続けている。その功績が認められ、今年 6 月には有機化学分野の世界的業績に贈られる米国化学会の「ロジャー・アダムス賞」を受賞。日本人では野依良治氏 (名古屋大学特別教授・科学技術振興機構研究開発戦略センター長) に続き 2 人目の快挙。今年で 74 才の山本氏、いつまで現役で研究を続けるのかと尋ねると「今までは自分の興味の湧くままに研究をしてきましたが、少しづらいは世のためになる研究をしようと思ひ、ルイス酸を

使った触媒的ペプチド合成の研究をしています。もし、この研究が上手くいけば医薬品に応用され、2、30 年後には副作用の少ないペプチド医薬品の開発に繋がると思います。この研究への費用が 5 年間は付いていますから、少なくともそこまでは頑張りますよ。」と研究に対するモチベーションは、研究をはじめた時から今も衰えることはない。

## 研究の楽しさ

今まで研究を続けてきて思うことは、「研究とは面白いもので、誰にでも成功するチャンスはありますが、多くの方は宝の箱にぶつかっても、それが宝の箱だと気づかない。箱の横に鍵が置いてあるのに、その鍵で箱を開けて中を見ようとしな。それまでの自分の考えに凝り固まってしまっているのですね。ですから、もの凄く自由な思考になって、広い視点で物事を考えると、突然視界が開けたかのように見えてくるのです。もしかしたらこの考え方は、研究だけに限らず人生そのものにも言えることかもしれませんね。あと、自然が色々なことを教えてくれますから、自然に寄り添った考え方をすれば良いのですが、無理に自然を支配しようとするからうまくいかない。今でも、何で今までこんなことに気が付かなかったのだろうと思うことが年に 1、2 回はありますよ。だから研究はやめられないですね、面白くて。」と研究についての魅力を熱く語る。



## 芦屋への思い

芦屋への思いは、「今でも芦屋にはたくさんの友達がいますよ。私が山手小学校に通っていたころは、まだ学校の周りにも住宅が無くてたくさんの自然が残っていました。野山を駆け回り、城山にも何回も登りました。芦屋川の支流に蛍が飛んでいたことや、山手小学校に入学する時の桜がとてもきれいに咲いていたことを今でも覚えています。その時の芦屋の環境が今の私を育ててくれたのだと思っています。」と懐かしそうに当時の芦屋に思いを馳せる。

## 本当に自分がやりたいことを

最後に芦屋の子どもたちへ、「本当に自分がやりたいことに素直になったほうがいい。心静かに考えていると本当に自分のやりたいことが分かってくる。それが大切なことだと思います。自分に嘘をつかないで、自分がつまらないと思うことで時間をつぶすのは、時間を無駄に使っていることです。人生は長いようで短い。自分が本当に好きなことを探しあてて、それに時間を費やす。それが人生だと思います。」

## プロフィール

- 1943 ● 神戸市生まれ
- 1949 ● 芦屋市立山手小学校入学
- 1954 ● 灘中学入学、市内に転入
- 1967 ● 京都大学卒業
- 1971 ● ハーバード大学大学院修了
- 1976 ● 京都大学講師
- 1977 ● ハワイ大学准教授
- 1983 ● 名古屋大学教授
- 2002 ● シカゴ大学教授
- 2011 ● 中部大学教授
- 2017 ● 米国化学会「ロジャー・アダムス賞」受賞  
「ロジャー・アダムス賞」米国化学会有機部門が授与する有機化学界では最も権威ある賞で、2年に一度授与される。